
新県立博物館 詳細設計（建築・展示） 中間報告2

（平成22年1月26日）

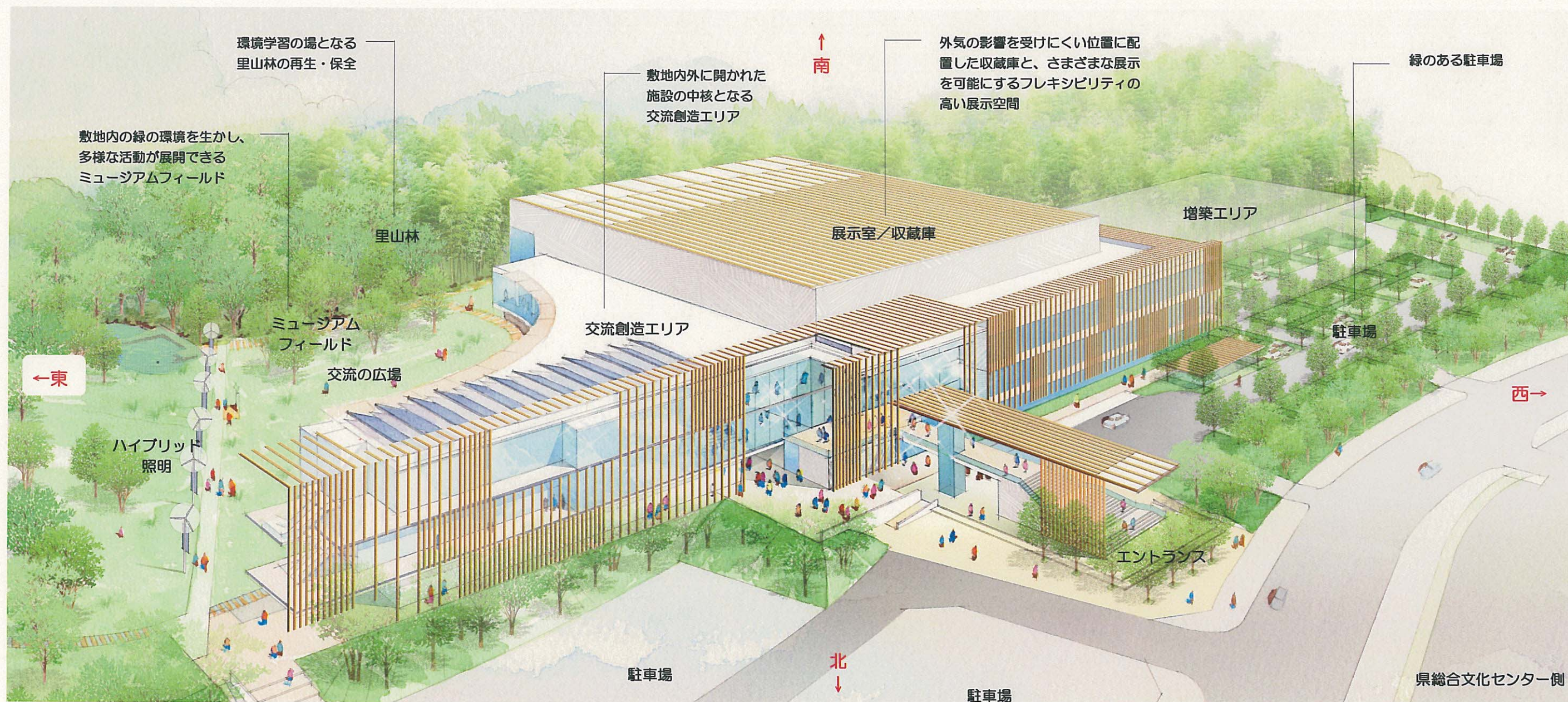
< 建築 >

1. コンセプト	1
2. 配置図・外構図	2
3. 各階平面図	3

< 展示 >

1. 学習交流スペース	6
2. こども体験展示室	7
3. 三重の実物図鑑ルーム	8
4. 歴史的公文書選別・保存の想定フロー(参考)	9
5. 基本展示室 展示構成概念図	10
6. テーマ展示室の展開例	11

「三重の自然と歴史・文化」を育み、みなさんと「ともに考え、活動し、成長する博物館」をめざします



(1) 県総合文化センターや美術館と一体となった「文化ゾーン」

県総合文化センターや美術館との文化ゾーンの形成を意識し、配置や動線などに配慮した計画とします。

(2) 県立博物館にふさわしい「外観デザイン」

周囲の景観に配慮しながら、県立博物館にふさわしい落ち着きや、三重らしさを感じるデザインとします。

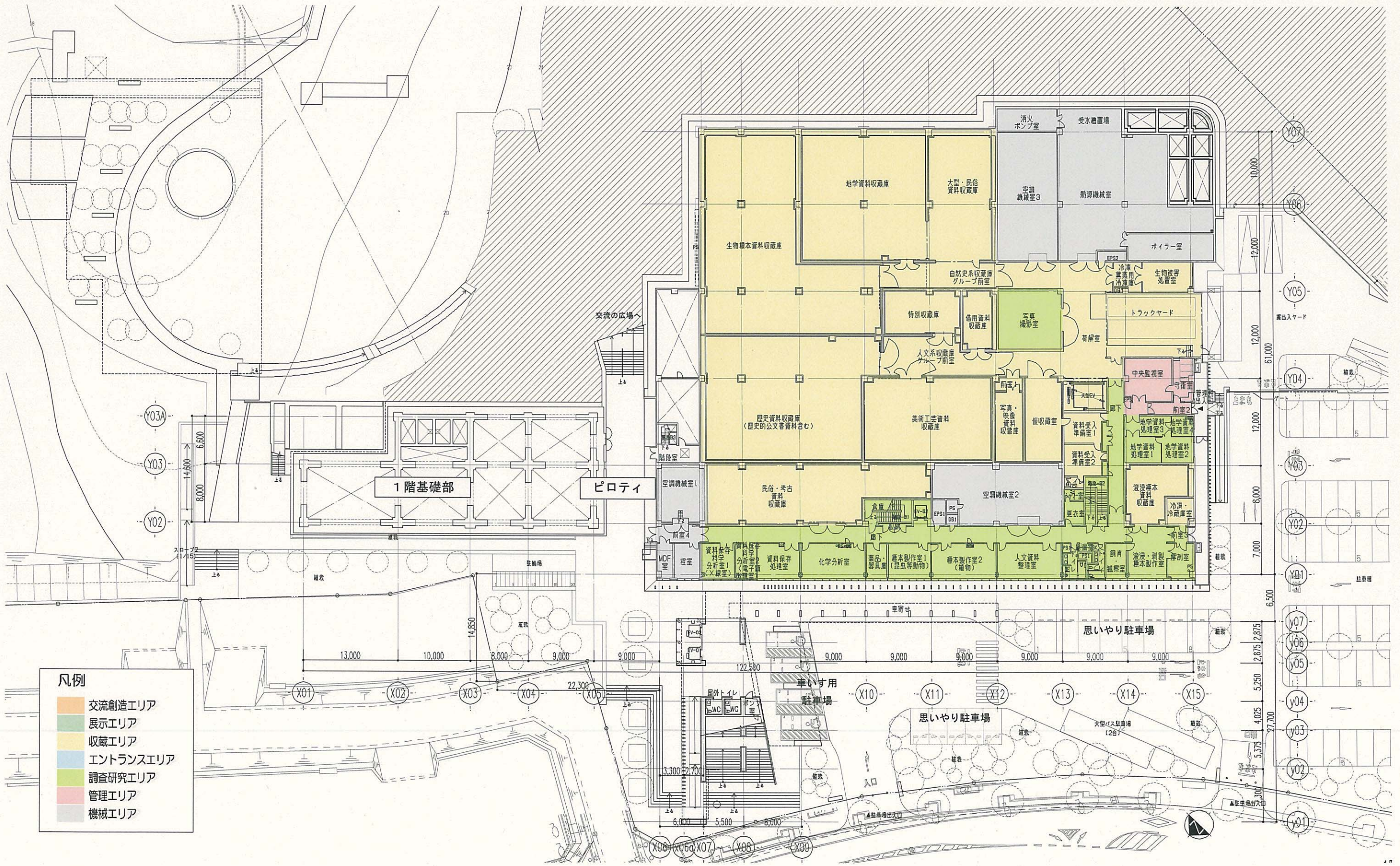
(3) 緑の環境を生かす「ミュージアムフィールド」

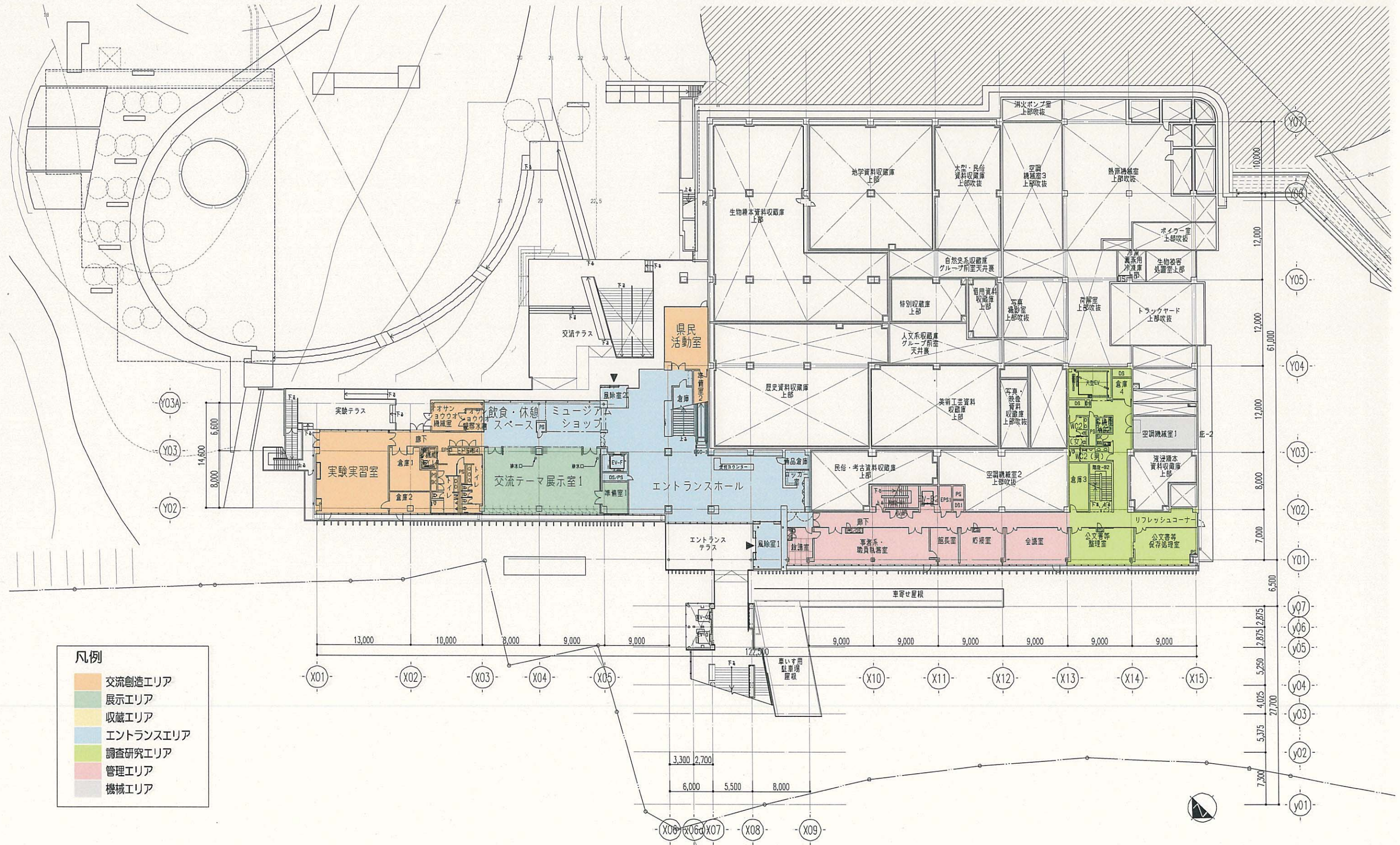
敷地内の緑の環境を生かすミュージアムフィールドを設けるとともに、環境保全の大切さが感じられる施設とします。

【鳥瞰パース】

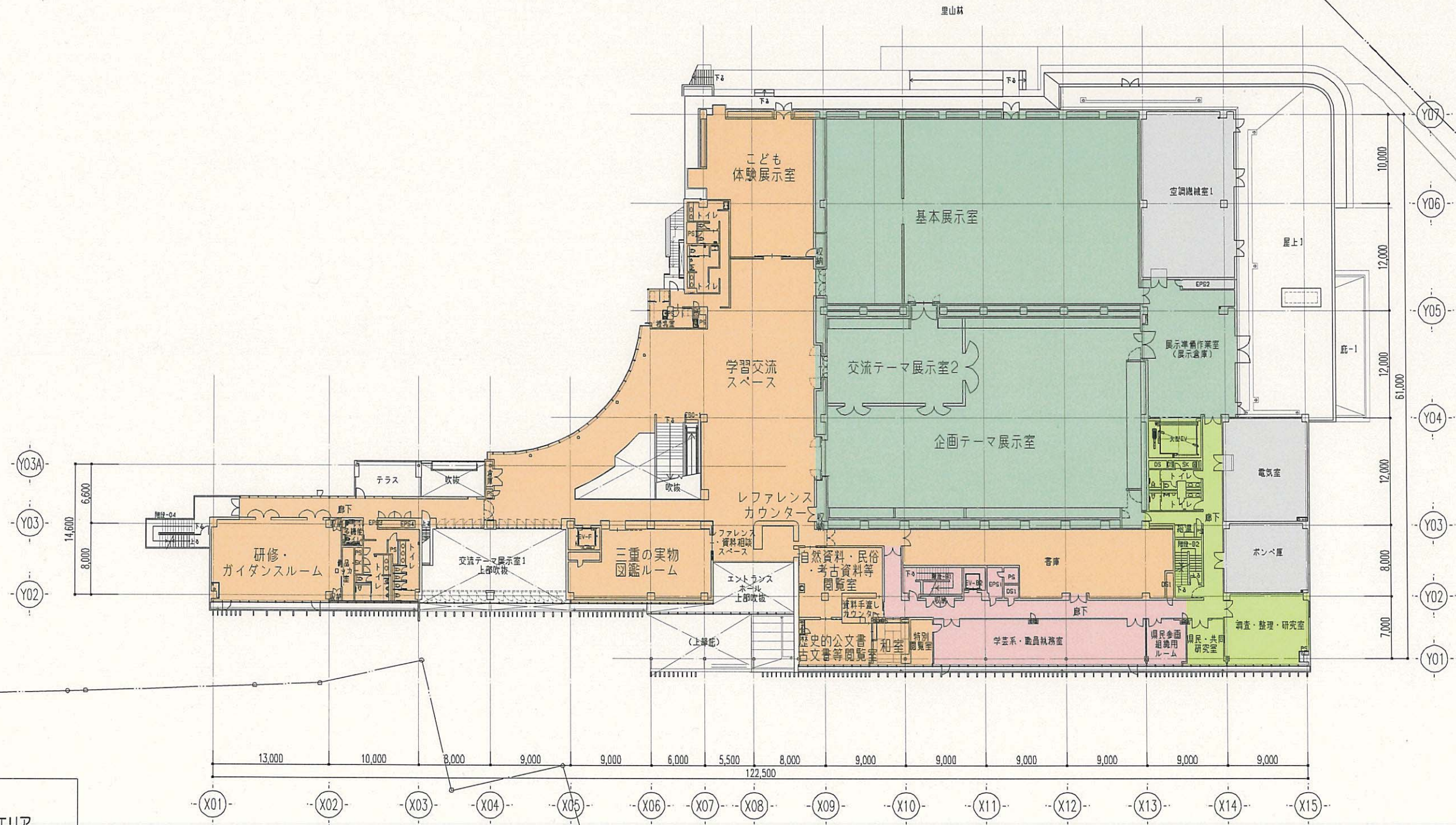


建築3. 各階平面図





- 凡例**
- 交流創造エリア
 - 展示エリア
 - 収蔵エリア
 - エントランスエリア
 - 調査研究エリア
 - 管理エリア
 - 機械エリア

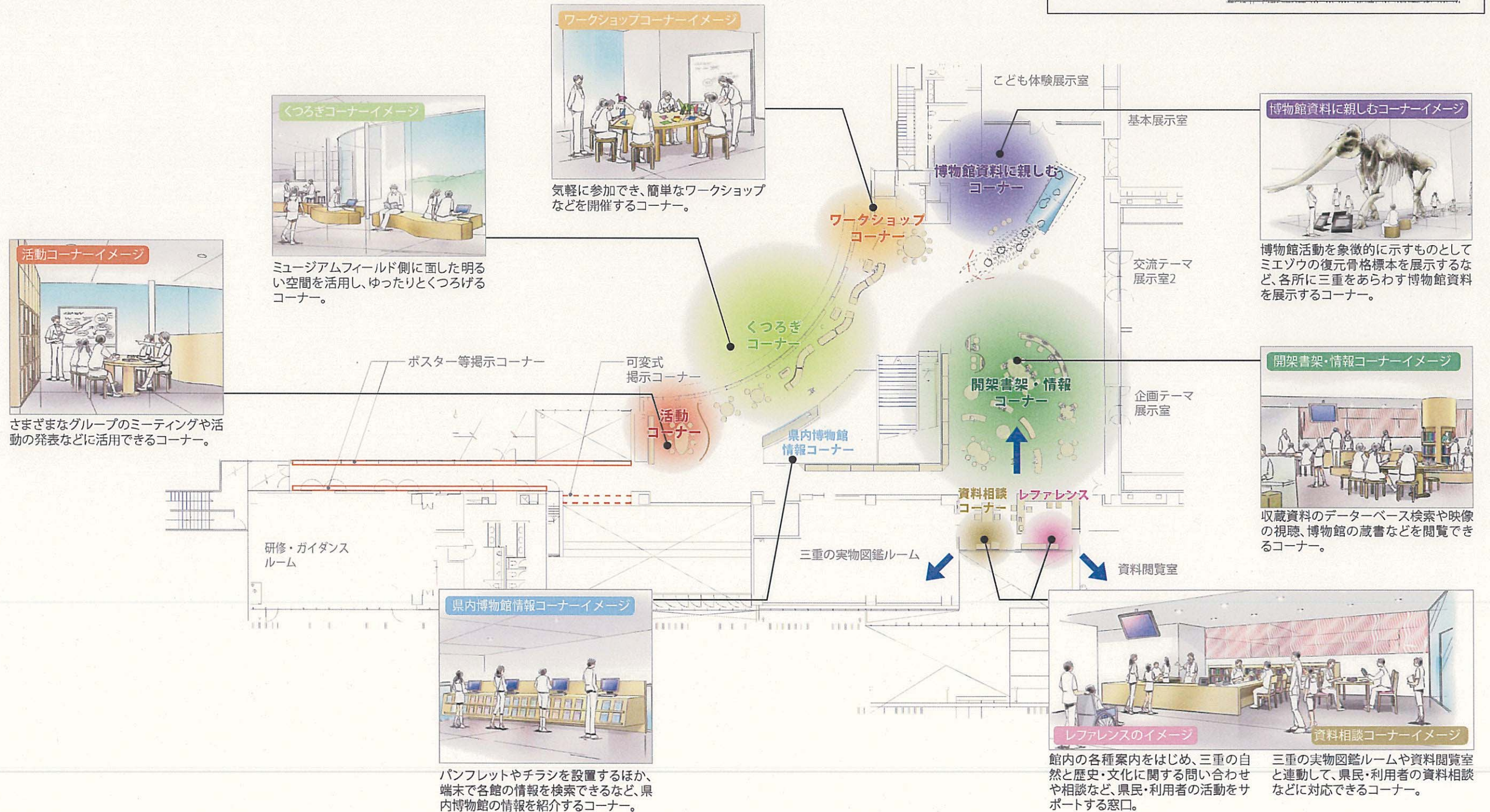
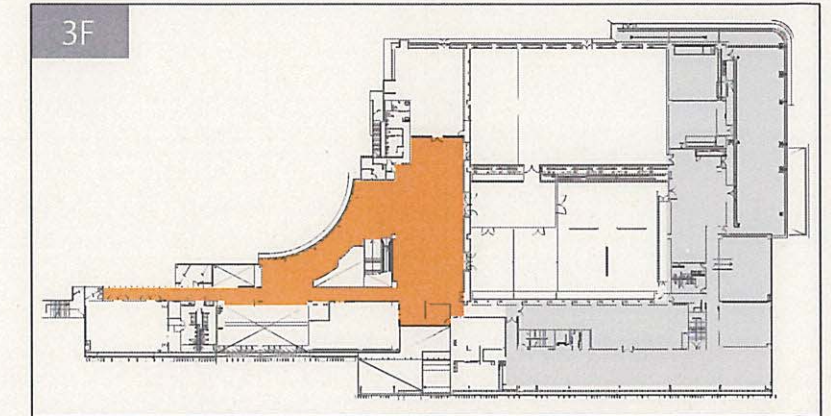


凡例

交流創造エリア
展示エリア
収蔵エリア
エントランスエリア
調査研究エリア
管理エリア
機械エリア

学習や研究、グループでの活動などさまざまな交流が生まれる場所

ミュージアムフィールド側に開かれた明るい空間。
 目的に応じたコーナーが有機的につながるゾーニング。
 三重の自然と歴史・文化に関する問い合わせや相談、書籍の閲覧、個人やグループによる活動などがフレキシブルに展開できる。
 ミエゾウの復元骨格標本をはじめ、博物館資料に親しめるような展示展開も行う。



こどもたちが博物館を好きになるきっかけとなる展示室

ミュージアムフィールドが望める展示室。天井高を生かし、開放的な空間とする。訪れたこどもたちが「遊ぶ・楽しむ」を通して、博物館の楽しさを知ることができる展示内容とする。

やってみる (体験)

遊ぶ・楽しむを通して博物館資料への興味や不思議を体験できるコーナーイメージ

ふしぎ?のもり

花・木・葉など様々な生き物の匂いの実を嗅いだり、中二階からミエゾウを見る事ができる。

だれの足跡?だれのうんち?

動物や昆虫など生き物のうんちや足跡などの痕跡を床や壁の一部も使って表現。何の生き物が間いかける。ところどころ床がめくれたり、石をどけると下に何かが隠れている。

くらべっこうおーる

いろんな生き物たちと背くらべ、体力比べ、能力比べができる壁面展示。意外な能力に秀でた隠れたチャンピオン達について学べる。



天井高を生かした中二階のある展示や学習交流スペースからこどもたちが楽しそうと思えるようなデザイン、三重県らしいモチーフを引き続き検討する。

しらべる (調査)

興味や不思議を理解や探求心につなげるコーナーイメージ

大きな虫めがねと小さな虫めがね

大きな虫眼鏡(ビューワ)で昆虫や花など、何でも大きくしたり、顕微鏡で鉱物や花粉などを観察する。

なりきりファッションショー

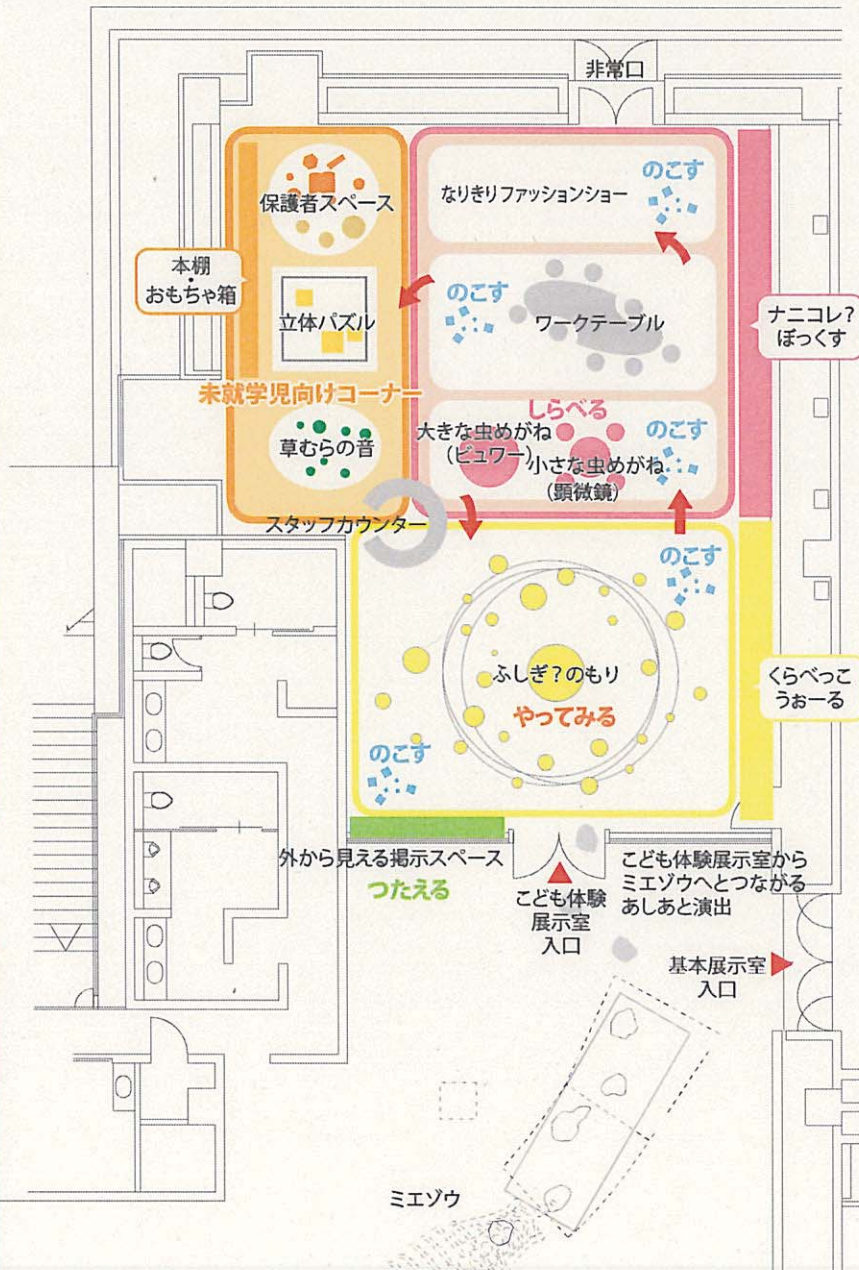
動物の歩き方をまねてみたり、生き物になりきって技を体験してみる。

ナニコレ?ぼっくす

動物や昆虫、植物などの自然史系、民具等の人文系、更に博物館の保存活動に関する展示内容が詰まったBOX。年齢や興味によって使い分けができ、内容も随時更新可能。

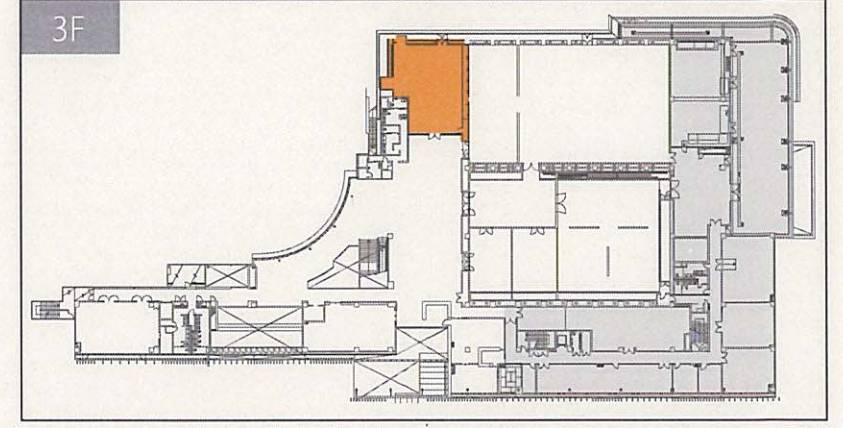
ワークテーブル

ナニコレ?ぼっくすや簡単な体験ができるスペース展開。



■展示の特徴

- こども目線から発想する空間設計
- 他の諸室との連動の検討
- 五感に訴える展示手法
- スタッフの配置



のこす (保存・記録)

体験を記録したり、保存の方法を体験するコーナーイメージ

のこす、きろくする

保存する方法や、記録する技を体験する。→それぞれのコーナーで展開。



つたえる (展示)

体験の成果を展示したり発表できるコーナーイメージ

こどもアートギャラリー

こども体験展示室内でつくった作品などを展示。



未就学児向けコーナーイメージ

未就学児も安全に体験できるように、未就学児ゾーンと就学児ゾーンを設ける。

草むらの音

草むらからいろんな音が聞こえてくる。昆虫の鳴き声、動物の鳴き声、風の音、川の音、波の音、磯笛、祭りの音、など。



立体パズル

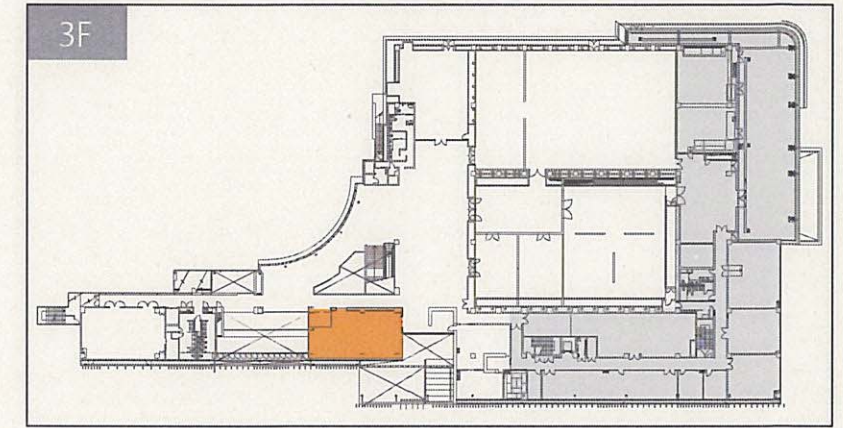
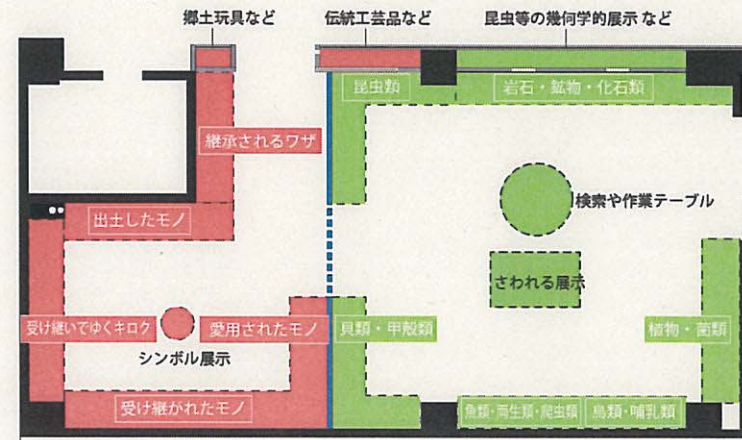
やわらかい素材でできた大きな立体パズルで遊べるスペース。ソファのように腰掛けることもでき、保護者と一緒に絵本を読んだり遊んだりして、自由に過ごせる。



展示3. 三重の実物図鑑ルーム

身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

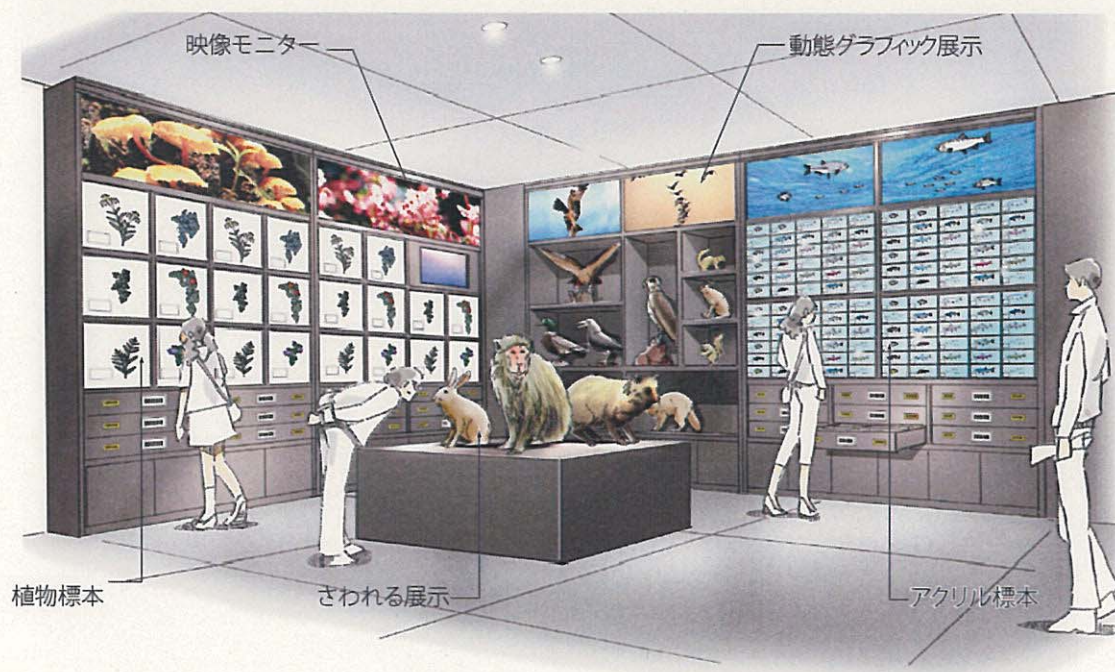
三重の歴史と文化に関する資料は、受け継がれてきた経緯とともに、美しく展示する。資料保存の観点や季節・企画に応じた展示替えも検討する。三重の自然に関する資料は、図鑑的分類による展示に加えて、映像やグラフィックなど、動植物の生態を伝える展示手法や、さわられる展示など、資料に興味を持ってもらえるような展示手法を検討する。



三重の歴史と文化に関する資料の展示イメージ



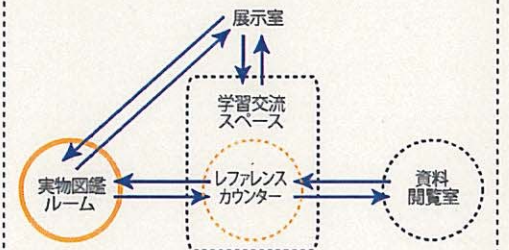
三重の自然に関する資料の展示イメージ



■展示室の特徴

他の諸室や資料相談、閲覧との連動

実物図鑑ルームの見学にとどまらず、レファレンスカウンターでの資料相談に連動した利用や、資料閲覧・活用のきっかけとなる部屋とする。



博物館資料の保存と継承

博物館の使命である「三重の自然と歴史・文化に関する資産を保全・継承し、次代へ生かす博物館」の一役を担う部屋として、博物館にはどのような資料が收藏され、どのように保存されているかを紹介することで、県民・利用者との協力による地域の貴重な資料の保存、継承の重要性を発信する。



出土したモノ
出土した考古資料など



須恵器 器台 など

受け継がれたモノ
大切に保存されてきた美術工芸品など



和時計 など

継承されるワザ
伝え残すべき伝統工芸やその技など



縞帳 など

愛用されたモノ
日常的に使われてきた道具、民具など



蓄音機 など

受け継いでいくキロク
保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など



地租改正反対一揆関係資料 など

植物・菌類



ハラタケ など

さわられる展示



ニホンザル など

鳥類・哺乳類



ニホンイタチ など

魚類・両生類・爬虫類

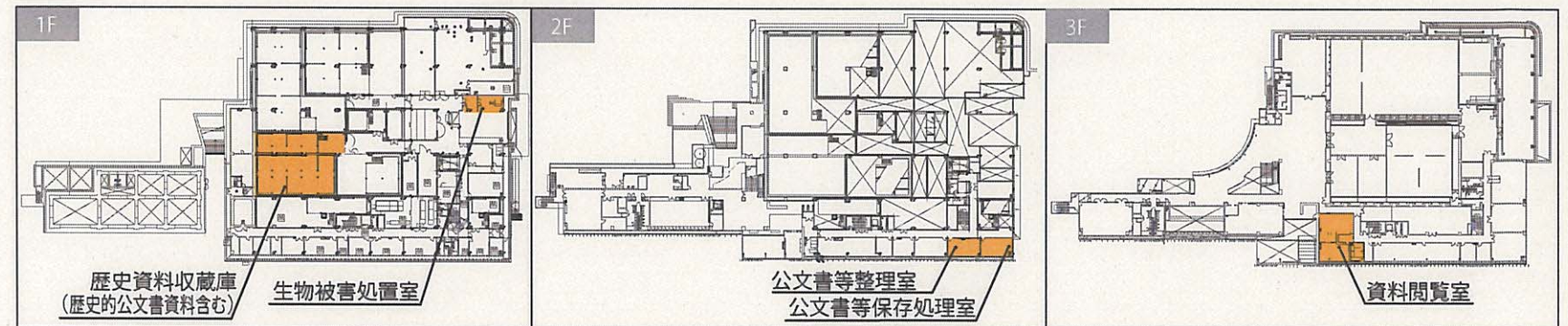


ヤマカガシ など

展示4. 歴史的公文書選別・保存の想定フロー(参考)

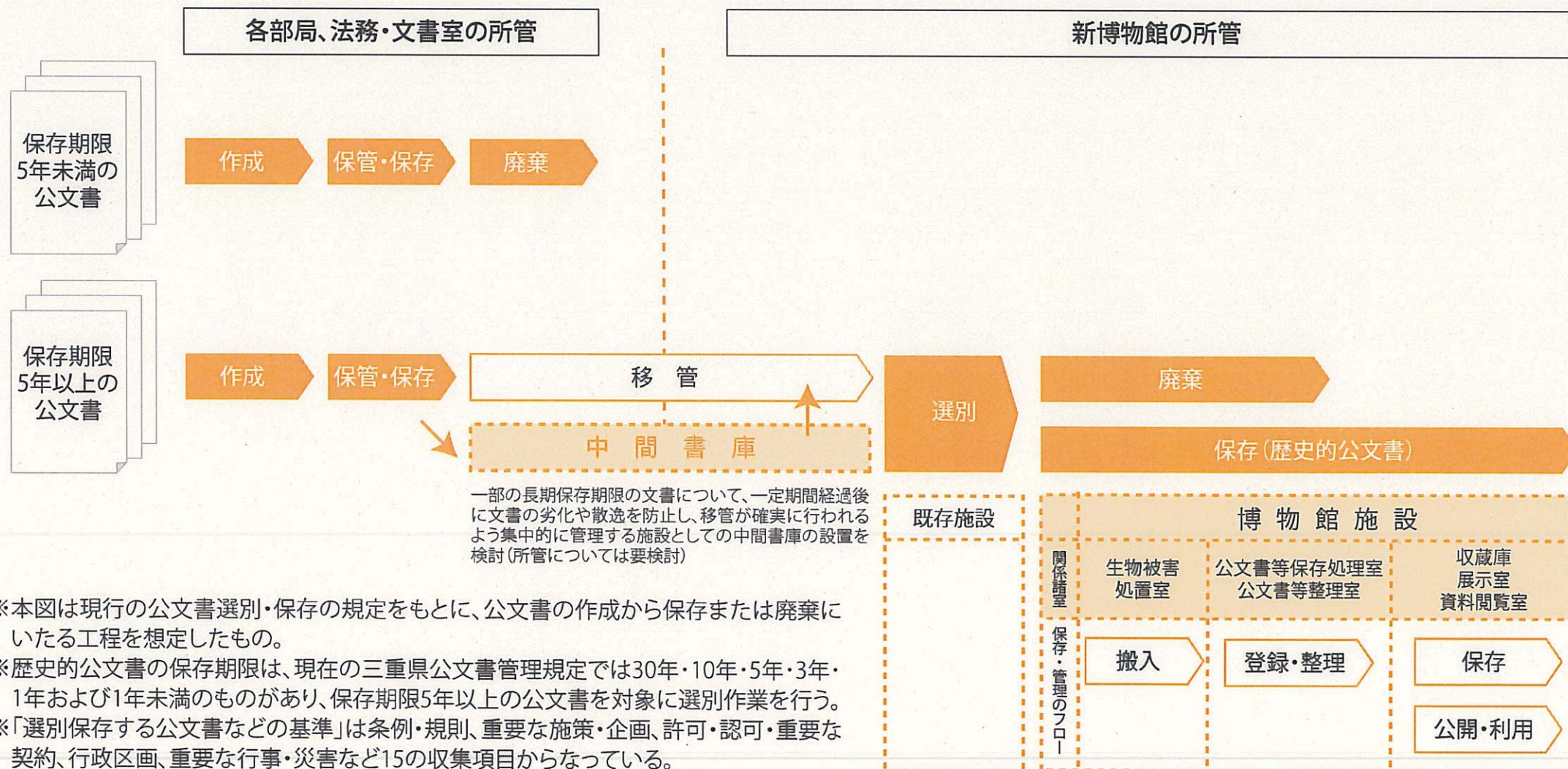
歴史資料として重要な公文書等を保存、閲覧、調査研究する 公文書館機能を一体化した博物館

歴史資料として重要な公文書等(「歴史的公文書」)を保存し、利用に供する公文書館法に基づく施設としての機能を持ち、併せて博物館の資料として活用することで、三重の文化振興に寄与し、より幅広い博物館活動を促進する。



<歴史的公文書の保存・公開のプロセス>

保存対象資料を選別するための作業は、既存の施設(博物館外)を活用することとし、選別を終えて保存することが決まった歴史的公文書を博物館に搬入、1階の生物被害処置室で殺虫処理のあと、2階の公文書等保存処理室、公文書等整理室で整理作業等を行う。1階の収蔵庫(人文系資料・歴史資料収蔵庫等)で保存し、保存された歴史的公文書等は、3階の資料閲覧室で利用に供する。ただし、歴史的公文書は情報公開条例の対象外であり、閲覧・公開にあたっては、規定などの整備が必要となる。



※本図は現行の公文書選別・保存の規定をもとに、公文書の作成から保存または廃棄にいたる工程を想定したもの。
 ※歴史的公文書の保存期限は、現在の三重県公文書管理規定では30年・10年・5年・3年・1年および1年未満のものがあり、保存期限5年以上の公文書を対象に選別作業を行う。
 ※「選別保存する公文書などの基準」は条例・規則、重要な施策・企画、許可・認可・重要な契約、行政区画、重要な行事・災害など15の収集項目からなっている。

■資料閲覧室の特徴

歴史的公文書・古文書等閲覧室

三重県庁の歴史的公文書(選別公文書と明治期県庁文書・絵図など)、古文書や冊子・版本などの文献資料、版画や絵巻などの絵画資料など、主に紙媒体の資料を閲覧することができる。



自然資料・民俗・考古資料等閲覧室

化石・鉱物などの地学標本資料、動・植物の標本資料などの自然系資料、民俗・考古・陶磁器などの人文系の器物資料を閲覧できる。



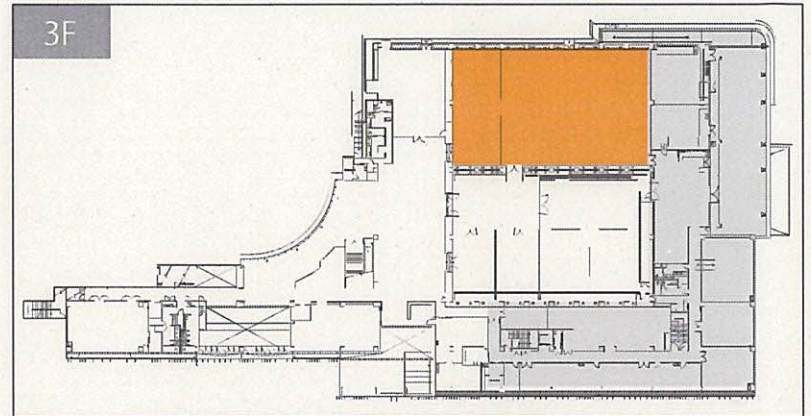
自然資料・民俗・考古資料等閲覧室

軸物や屏風・大型絵図など、机上で扱うことが困難な資料、特別な配慮が必要な資料の閲覧、団体や行政機関等の特別な閲覧に使用する。



多様で豊かな三重の自然と暮らし、 人・モノ・文化の交流を巡る展示ストーリー

多様な三重の自然のすがたや人・モノ・文化の交流を紹介する'三重のマイクロコスモス（小宇宙）'展示。三重の多様性やそれらが持つ力について考えるきっかけとなる展示とする。



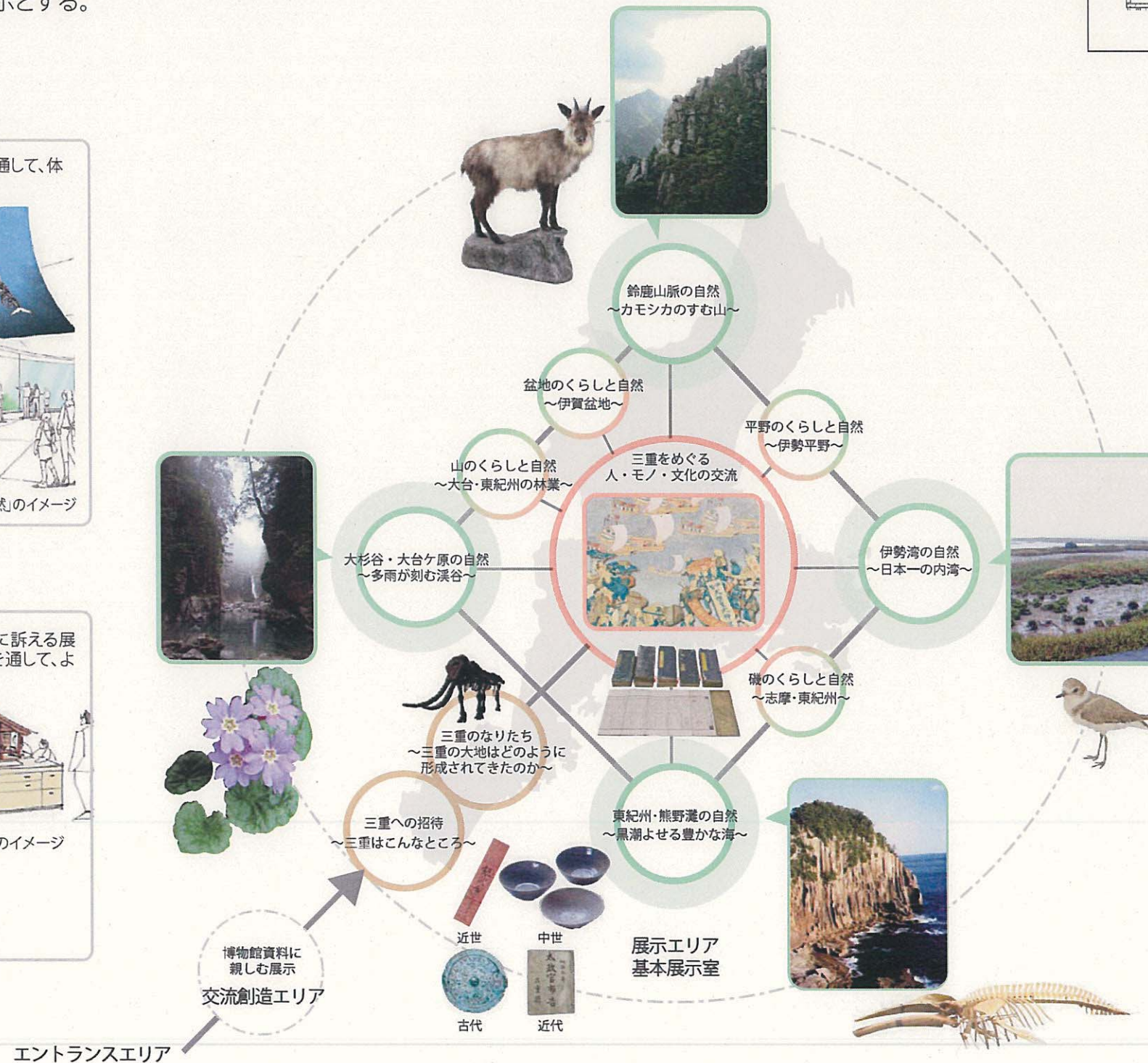
感じる展示

多様で豊かな自然や多彩な交流を空間体験を通して、体感的に伝える展示。



知る・つながる展示

ハンズオンなどアクションを起こす身体感覚に訴える展示手法や、現在の私たちの身の回りとの比較を通して、より身近に感じてもらう展示。



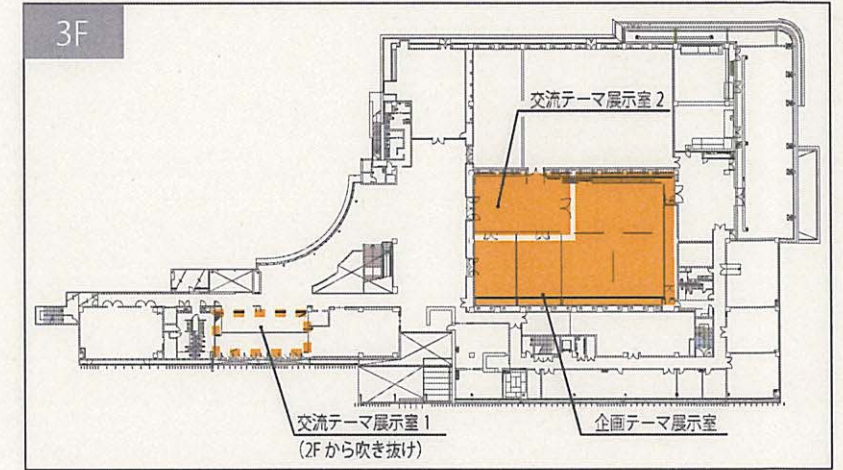
調べる・参加する展示

展示室内に三重の自然と歴史・文化に関する情報・書籍コーナーを配置。県民から集まった最新の地域情報を調べたり、書籍を閲覧できる。展示に関するワークショップを実施し、地域とつながる。



さまざまな展示を可能にするフレキシブルな空間で、 多様な三重の魅力を多様に展開

大規模な全国巡回展や自主企画展、県民との協創交流展などの組み合わせで、多様な三重の魅力を幅広く紹介する。各々の展示内容や規模に応じて、大小さまざまな展示空間をつくりだす。仕様の異なる展示室を効果的に組み合わせ、多様な展開とする。



企画展示(自主企画展・全国巡回展・共同企画展)



「美しい国・三重の至宝」のイメージ

調査研究などの成果をベースに三重の自然と歴史・文化や、これにちなむ幅広い魅力を紹介する自主企画展や全国的な規模で行われる全国巡回展、共同企画展などを開催。

テーマ例

- 「美しい国・三重の至宝」
三重の豊かな歴史・文化をあらわす国宝・重要文化財などの至宝を一堂に集めて紹介
- 「古文書が語る地域の歴史」
古文書等の歴史資料によって地域の歴史を紹介
- 「日本で見つかった恐竜たち - 大型恐竜のナゾをさぐる -」
全国の博物館との共催で、トバリュウをはじめ、国内で見つかった大型恐竜を紹介する巡回展を開催 など

交流展示(県民協創交流展・他機関等との連携展)



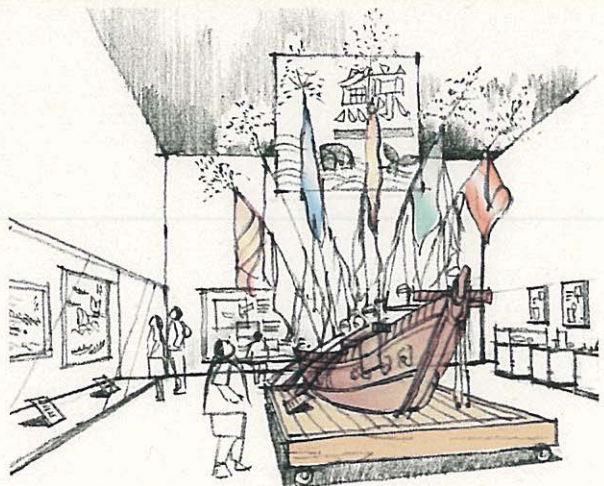
県民参加型調査展
「三重の里山を考える」のイメージ

県民や諸団体などとの協創による展示。県民協創交流展をはじめ、文化施設や大学、地場産業、企業などとの連携を図り実施。

テーマ例

- 県民参加型調査展「三重の里山を考える」
- 諸団体との協創による展示「自然文化祭」
- 「小さなチョウの大きな旅 - 日本を縦断するチョウたち -」
- 「地域に残る石仏たち - サポートスタッフとの協創調査から -」
- 「日本まんなか共和国共同展」 など

トピック展示



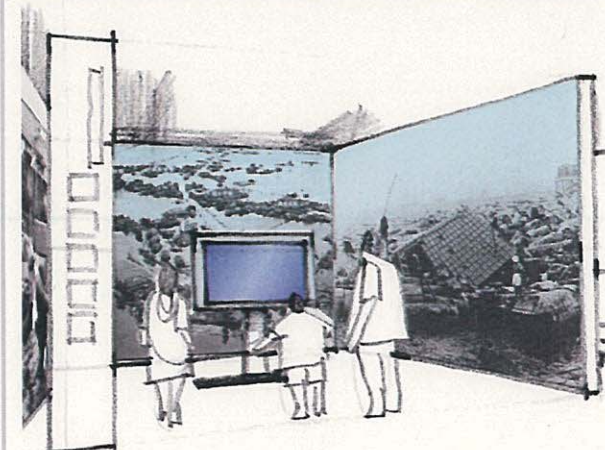
「クジラをめぐる人とまつり」のイメージ

基本展示と連動・補完する展示。随時展示替えを行うことで、常に新しい三重の魅力を発信、発見。

テーマ例

- 「クジラをめぐる人とまつり」
- 「物語のなかの生きものたち」
- 「ウシ・牛・丑年(干支シリーズ)」
- 「桜とその名所」
- 「伊勢型紙のワザと意匠」 など

交流展示(県諸施策との連携展)



「三重の防災—地震・台風を記録した歴史資料から学ぶ—」のイメージ

博物館の展示発信機能を生かした、県の諸施策などの発信。

テーマ例

- 「三重の防災—地震・台風を記録した歴史資料から学ぶ—」
- 「戦争の記憶 - 過去の経験から平和を考える」
- 「三重の子育て100年 - みんなで支える三重の子育て -」 など